



2022年に中村電設株式会社へ中途入社した辻野竜馬。10代の頃から数多くの現場で経験を積み、技術力や知識を習得していった。現在も仕事に活かそうと資格取得に励み、意欲的に職務と向き合う日々だ。配管工事や電気工事など、叩き上げの経歴を持つ辻野は、これまでどのような道のりを歩んできたのだろうか。今後の糧となった出来事やプライベートなどを聞き、その人となり迫る。

父のように配管工事に携わりたい

電気工事に携わる父に憧れ、自身も職人の世界へ飛び込んだ辻野。当初は鳶職（とびしょく）・足場工、17歳からの約2年は電気工事に取り組み、19～25歳は一人親方としてさまざまな作業を請

け負った。その後は携帯電話のアンテナ工事に携わったが、以前関わっていた電気工事の現場に再び立ちたいと思い、転職を考え始めた頃、中村電設に出会った。かねてより抱いていた「父のように格好よく仕事をしたい」という思いも背中を押し、



思い切って門を叩いたのである。

入社当初は、10年以上もブランクがある電気配管工事（プラント設備向け電気工事）の現場へ戻ることに不安もあったが、不思議なもので体が仕事を覚えていた。すんなりと作業に入れたことが嬉しく、今も充実感を味わいながら業務に臨んでいる。

多くの教訓を得られた工事での失敗

中村電設に入社してからは滞りなく作業を進められているが、前職では苦い思いも経験している。それは、携帯電話のアンテナ基地局を工事していたときだった。既設配管に新しい光ケーブルを入れる際、同僚が通信中のケーブルを切断してしまったのだ。4000人以上もの人が電波通信を行う基地局を止めてしまったことにより、大問題へと発展。当時、作業責任者だった辻野が、責任を負うことになったのである。

「元請け会社の方が協力して対応してくださったおかげで、何とか解決したものの、手痛い失敗として記憶に残っています」。

しかし、この失敗からさまざまな教訓も得た。例えば、工事において基礎的な部分をおろそかにせず、目の前の作業を丁寧かつ確実に行う大切さを改めて学んだのだ。加えて、作業責任者としてトラブルが発生した場合の責任の取り方、日頃のコミュニケーションの重要性を見つめ直す機会になったという。

家族の存在がモチベーションに

辻野の仕事の原動力は、やはり家族だ。特に5人の子どもたちは、癒しやパワーを与えてくれる。休日は、近くの公園に行ってすべり台やブランコで元気に遊ぶ子どもたちの面倒を見たり、自宅で一緒に遊んだりしている。2024年に高校へ進学する長子から保育園児まで揃う辻野家は、毎



日がとても賑やかだ。大変なことも多いが、やはり子どもはかけがえのない宝物。以前の職場とは異なり退社時間が早いため、家族との時間もきちんと確保できる。子どもたちがこれからどのように育ち、将来どのような大人になっていくのか。その成長を見守るのが、大きな楽しみだ。

安全第一で、いずれは作業責任者に

今後の目標は、作業責任者になること。そのためにも、無事故達成を目指していきたいと考えている。どれだけ早く仕事を終えたとしても、事故が発生すれば意味がない。危険を避けながら問題なく工事を遂行するのは簡単なようで難しいが、一日一日を大切にしながら、これからも今まで通り仕事としっかり向き合っていこうと思っている。

もう1つ目標に掲げているのが、資格取得だ。先日、第一種電気工事士試験を受けた。結果はまだ出ていないものの、自分なりに手ごたえを感じている。

「勉強は決して得意とはいえませんが、10年分の過去問題にまんべんなく目を通すなど、自分なりに対策は行いました。これからも会社で求められる資格があれば積極的にチャレンジし、スキルアップしていきたいと思います」。

長年の経験にあぐらをかかず、さらなる高みを目指す辻野。これからもその前向きな姿勢で、中村電設にとって必要不可欠な存在としてその成長を支えていくに違いない。

辻野さんへのメッセージ



「なんやこいつ」という第一印象からいつしか、信頼する関係へ！
この2年間の現場でのエピソードを出来田さんに語っていただきました。

辻野さんの第一印象と今の印象

第一印象は「なんやこいつ」と思いました(笑)実は話しかけにくく、性格も合わないと感じ、良い印象ではありませんでした。しかし今では、辻野さんの真面目に仕事に取り組む姿勢に信頼を寄せています。電気工事は力作業が多いですが、彼は数十kgもあるケーブルを1人で運ぶ力強さを持つ人物です。現場では黙々と作業を行い、仕事は速く丁寧なため安心して任せることができます。

辻野さんとの思い出

2023年10月まで、新築工事の現場で辻野さんと一緒に仕事をしました。鉄を溶かしたりメッキを施したり熱源が多く、特に夏場は過酷な環境で作業を行いました。このような条件下での作業はそれだけでも困難で、多くの人員を必要とする作業でしたが、辻野さんのおかげで、猛暑の中でも予定通りに工事を完了することができました。

辻野さんへのメッセージ

この会社に骨を埋めるくらい長く働いてほしいと思います。

できたたいじ
出来田 泰二さん

中途社員に聞く!

中村電設の魅力

2022年に中途で入社をされた辻野さんに、中村電設の魅力や働きやすさについて伺いました! 前職ではかなり大変な環境下で働かれていた辻野さん。中村電設に転職したことで変化したこととは?

前職の仕事内容

8年ほど通信工事をしていました。山の頂上にある80mの鉄塔にケーブルを引っ張っていく工事をしたこともあります。山の麓は晴れなのに、鉄塔に上がると吹雪になっているような、過酷な環境下の仕事も多くありました。日中は現場で満身創痍になりながら作業をして、現場から戻ると書類対応に追われる日々。朝は早くから、夜は10~11時まで働くような毎日でした。

中村電設の魅力

なんといっても時間にきっちりしていること。基本的に定時上がりで早く帰れるため、プライベートの時間をしっかりと確保できるようになりました。また、もし残業することがあっても残業代がしっかりと出るため、やる気を持って働くことができます。皆人当たりが良く、わからないことがあればすぐに教えてくれるところも働きやすいと感じるポイントです。

社長へのメッセージ

中村電設は福利厚生面が手厚いため、モチベーション高く働くことができています。さらにやる気が出るよう、今度社員旅行に連れて行ってください(笑)

つじの たつま
辻野 竜馬さん

金融リテラシーを上げよう! ~新NISA編~

「貯蓄から投資(資産形成)へ」というスローガンが叫ばれる昨今、NISAやiDeCoという制度について目にする機会が増えました。今回は2024年1月から始まる「新NISA」について、基本的なところから紹介していきます!

そもそもNISAとは?

NISAは「少額投資非課税制度」とも呼ばれ、株式や投資信託への投資で得られた利益について一定の期間、非課税とする制度のこと。つまり、**個人の資産形成を応援する国の税制優遇制度**とも言えます。たとえ

ば個人投資家は、投資で得られた利益に対し20.315%の税金を支払わなければなりません。しかし「NISA口座」を利用して一定の金額内で投資をすれば、その利益には税金がかからなくなるのです。

例) 資産運用で20万円の利益が出た場合



新NISAを始める メリットとは?

老後の資金確保にも活用しやすい制度として注目を集めているNISA。たとえば35歳から65歳までの**30年間に毎月5万円、合計1800万円を投資して、年率3%の投資利回りが実現できたと仮定すると、65歳時点**

の投資資産額は約2914万円になります。また投資利回り年率3%というのは、比較的低リスクの債券ファンドやバランスファンドでも実現可能。上記の例が決して夢物語ではないことを付け加えておきます。

2024年1月から!

新NISAがスタート!

新NISAへの移行を受けて、これまでの「一般NISA」と「つみたてNISA」は一本化され、代わりに新NISA内で「つみたて投資枠」と「成長投資枠」の2つに分かれることになります。

	つみたて投資枠	成長投資枠
年間投資枠	120万円	240万円
非課税保有期間	無期限	無期限
非課税保有限度額	1,800万円※簿価残高方式で管理(枠の再利用が可能)	1,200万円(内数)
口座開設期間	恒久化	恒久化
投資対象商品	長期の積立・分散投資に適した一定の投資信託(現行のつみたてNISAと同様)	上場株式・投資信託等(除外条件あり)
対象年齢	18歳以上	18歳以上
現行制度との関係	2023年末までに現行の一般NISA、つみたてNISA制度で投資した商品は新しい制度の外枠で、現行制度における非課税措置を適用	

新NISAのメリット 1

非課税保有期間が無期限に

これまでの保有期間は一般NISAで5年間、つみたてNISAで20年間でしたが、新NISAでは**つみたて投資枠も成長投資枠も無期限**となります。「非課税期間があと少ししかない。ここから急落したらどうしよう」といった余計な悩みを抱える可能性がなくなるのは、大きなメリットと言えるでしょう。

新NISAのメリット 2

年間投資上限額が拡大

これまでのNISAの年間投資上限額は、つみたてNISAが40万円、一般NISAが120万円でした。新NISAでは、**つみたて投資枠が120万円、成長投資枠が240万円**となります。両方を併用すれば、年間投資額の上限は最大360万円に。

新NISAのメリット 3

非課税保有限度額が拡大

これまでのNISAでは、つみたてNISAは年間最大投資額40万円×最長20年間の投資で最大800万円、一般NISAは年間最大投資額120万円×最長5年間の投資で最大600万円が非課税保有限度額でした。一方、新NISAでの**非課税保有限度額は1800万円(成長投資枠は1200万円まで)**。これまでよりも大きな金額を非課税で投資できるため、その分税制メリットを多く受けられるようになります。

iDeCoとの違いは?

iDeCoは老後の退職金の代わりになることを想定した制度のため、60歳までは引き出すことができません。一方、NISAはいつでも引き出すことが可能です。ただし、**NISAは長期的な目線での運用に適した制度**。短期間での一時的な値上がり・値下がりや売却してしまうことはおすすめしません。